

巻頭言

Preface



黒川 洸*

By Takeshi KUROKAWA

2015年度に入り、2015年～2017年の3か年の中期ビジョンを決定した。その柱として、1) 研究・政策提言のリーディングランナーとなること、2) 人材を大切にしたい組織づくりをすること、3) 健全な経営を達成すること、の3つを目標としている。

人材育成については、幅広い広領域を担当できる人材と、専門に特化した人材の両面を目標としている。健全な経営のためには、年間15億円以上の受託と直接経費率30%前半を目標とすることにしている。

一般財団法人化を契機に、戦略会議、業務推進会議の2つを立ち上げ、受注企画・業務遂行の年間計画を見通してチェックしつつ業務に取り組む方法が全所的に定着し、機能するようになったのが現状だと認識している。

平成28年4月には研究員、情報員、総務課員、新人10名の増員を図った。特に情報員、課員の新人採用は十数年ぶりで、育成方法についてはいろいろと戸惑いもあるが、うまく育って欲しいと思っている。このような職員増員により有給休暇取得が容易になり、結果的に職員個人の健康管理や、家族との十分なコミュニケーションもとれるようなワーク・ライフ・バランスの良い生活が達成できれば良いと願っている。

さらに受注状況を改善するために、業務計画書の質の向上、成果品の質の向上を目指す努力を惜しまない認識を職員全体で持つことが求められている。

調査研究をサポートするシステム部門、情報管理部門においては、プロジェクト毎の費用の管理や、個人の勤務時間の管理等を進める新しいシステムが導入された。さらに業務全体の効率化・省力化を進めるためにも、IBSの組織運営に関するシステム全体の刷新が早急に求められている。

今後は、組織運営のシステム刷新等により、内部の効率化を目指すとともに、社会状況の変化に対して常に柔軟で、質の高い調査研究を推進し、社会に貢献できる組織構築を目指す所存である。

*一般財団法人計量計画研究所 代表理事 工学博士